

日本図書館情報学会会報

No. 171

2018年10月

日本図書館情報学会事務局

〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25

白百合女子大学 今井福司研究室

(事務局業務に関する問合せ先)

(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内 日本図書館情報学会

E-mail : office@jslis.jp 学会ホームページ : <http://www.jslis.jp/>

ゆうちょ銀行 口座番号=00160-5-0045759 口座名義=日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019店 口座番号=当座 0045759 口座名義=日本図書館情報学会

2018年度会員集会開催のお知らせ

会長 小田 光宏

2018年度日本図書館情報学会会員集会を、下記のとおり、第66回研究大会の二日目に開催いたします。正会員ならびに学生会員のみなさまにおかれましては、多数ご出席いただきますよう、ご案内申し上げます。後掲するように、2018年度定例(通信)総会の投票に際して寄せられたご意見やご質問に対しては、常任理事会としての考え方や今後の取り組み予定などを回答としてお示ししました。とりわけ、会費改定を提案した第五号議案に関連して、学会の今後の運営に対するご助言・ご提言等を頂戴しました。会員集会では、それらに基づいて発展的な意見交換したいと存じます。よろしく、お願い申し上げます。

記

日時：2018年11月4日(日) 13:05~14:05

会場：琉球大学 千原キャンパス 人文社会学部文系講義棟 2階 215教室

次第： 1. 会勢報告

2. 2018年度定例(通信)総会の投票結果報告

3. 委員会等報告

4. 意見交換, 質疑

5. その他

2018年度学会賞等授賞式

会員集会の終了後、同会場において2018年度学会賞・論文賞・奨励賞の授与、ならびに、学会活動に貢献された方への感謝状の贈呈を行います。会員集会に引き続いて、ご臨席ください。

2018年度定例（通信）総会の投票結果

有権者数 681 (2018.6.1 現在)
投票総数 326 (内訳：郵送投票 69, 電子投票 257)
※締め切りを過ぎた郵送投票はありませんでした。
有効投票数 326
有効投票率 47.87% (参考 2017 年度 有効投票率 48.9%)
無効投票数 0

	賛	否	白票
第一号議案 2017 年度事業報告	325	0	1
第二号議案 2017 年度決算報告・会計監査報告	325	1	0
第三号議案 2018 年度事業計画案	326	0	0
第四号議案 2018 年度予算案	324	1	1
第五号議案 日本図書館情報学会会費の改定	301	22	3

について

日本図書館情報学会規約第 11 条第 1 項（正会員の 5 分の 1 以上：137）により総会は成立しました。第一号議案から第五号議案については、第 11 条 2 項（出席正会員の過半数：164）により、承認されました。よって、全議案は成立しました。

正会員から寄せられた意見、質問、感想・その他（回答は常任理事会による）

定例（通信）総会のご意見欄に、正会員各位から下記のようなご意見等が寄せられました（複数のご意見等に一括して回答している場合があります）。ありがとうございます。今後の学会活動の参考とさせていただきます。

(常任理事会)

【ご意見】

1. 司書資格取得のための省令科目とその内容について学会案を取りまとめるべく検討する体制をつくることを考えて下さい。
 - 図書館法施行規則の一部を改正する省令（2009 年）により、司書資格取得のために大学で履修すべき図書館に関する科目が改正され、2012 年度から 13 科目 24 単位に切り替えられました。その内容について、本学会として検討し、新たな案を提言するという意向は、今期常任理事会では持ち合わせておりません。ただし、研究との関わりにおいて、図書館情報学教育をどのように考えていくべきかについては、継続的な議論が必要であると認識しております。2017 年 3 月には、本学会の図書館情報学教育に資する事業ワーキンググループによる『図書館情報学教育の拡がりとは今後の方向性に関する調査報告書』を作成しましたが、今後も、司書養成の枠組みにとらわれず、図書館情報学教育のあり方について、検討していく所存です。会員の皆さまからの積極的なご意見も、お待ちしております。

2. 一応、各議案には賛成を投じたが、一つ予算の使い方について意見を言いたい。各委員の交通費、日当は本当に必要なのだろうか？こちらを支払わずに行なっている学会もある。遠方の委員の負担が増える・遠方の委員のなり手が減るなどの問題もでるとは思うが、検討の余地はあるように思う。また、委員会・理事会などは研究大会の日に行って交通費等の軽減を図るなどの工夫もあり得ると思う。
 - ▶ 各委員の交通費や日当は規定に基づき適切に対応しております。予算の削減のためには理事の人数の削減も検討することが必要かと思われます。なお、理事会はチェック機能を働かせるため、敢えて研究大会と同日には行わないこととした経緯がございます。
3. 会費改定については賛成する一方、フルタイムの職に就けていない若手会員への支援、あるいは研究職および図書館等の専門職の雇用安定に向けた何らかの方策（調査研究事業の対象にもなり得るか）の検討も必要かと思う。日本学術会議での提案や、他学会と連携しての調査・提言なども一案であろう。
 - ▶ 若手会員への支援については従来から重要な課題と認識しております。今回の会費改定において学生会員の会費を据え置いたのもそのためです。しかし、学生であることの確認と異なり、フルタイムの職に就けていない会員の確認の条件や手順は複雑で、今回の会費改定に盛り込むことはできませんでした。今後も引き続き検討を継続していきます。
 - ▶ 会費減免ではなく、若手会員の研究大会への発表補助に関しては来年度以降具体的な事業として検討を行う予定です。研究職の雇用安定に関しては、既に日本学術会議等で議論されており、構造的な問題を抱えていることは明白ですが、図書館情報学分野に関してさらに調査する必要性が高いとは認識しておりません。図書館等の専門職の雇用安定に関しては、公立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館で置かれている状況が大きく異なり、雇用安定という観点からの調査を学会が取り組むべき事であるかは判然といたしません。図書館の将来と図書館員の役割といったより大きな文脈において考える余地はあるかと思いますので、来期以降、学会が取り組むべき調査研究のテーマの一つとして検討していきたいと考えます。
4. シニア会員については、認定するための条件を整備した方がよいと思います。
5. シニア割引の件は厄介ですね。人口の多い世代が退職するので、これに伴い退会者が出るようであれば、逆に痛手となるかも分かりませんね。
6. 所属機関を離れた 70 歳以上の教育・研究者、65 歳以上の図書館職員などのシニア会費の設定をご検討ください。
7. 年金暮らしの高齢者でもいつまでも会員でいられる学会であってほしい。
 - ▶ シニア割引は含めておりません。当初、2017 年 10 月に会費改定検討グループから「日本図書館情報学会財政シミュレーション」を提示した際に、正会員 8,000 円、学生会員 2,000 円に加え、シニア割引 5,000 円の会費額改訂案をお示ししておりました。しかし同月、同案に関するウェブアンケートを実施し、翌 11 月に会員集会で会員の皆さまから直接意見を聴取したところ、対象年代の会員を含む複数の会員から、シニア割引は不要との見解が表明されました。これを受けて、『会報』No.168（2018 年 2 月）で「会費改定（常任理事会案）に対する意見表明のお願い」を呼びかけた際には、“検討グループの原案では、シニア割引 5,000 円を設定していましたが、不要であるとの意見が、少なくない数の会員から示されたことから、常任理事会案では、設定していません”とお伝えし、再度意見を募りました。しかしその後も、シニア割引

に関する積極的な支持は見られなかったことから、このたびの第五号議案にシニア割引を含めないことといたしました。ご理解いただければ幸いです。

8. 会費については、受益の度合いに応じた負担の検討が必要なように思います。論文投稿料や大会参加費で要綱を冊子で希望する者の分を高額にするなど、改善の余地はあるように思います。
 - ▶ 学会の「受益」には、論文の投稿・掲載だけでなく閲覧・引用も含まれると考えると、会員の受益の度合いを算出することは容易ではありません。また、本学会の規模や学会誌・発表論文集の発行部数を考えると、論文投稿料を設定したり冊子分を大会参加費に上乘せしたりするのは、研究活動が活性化されない可能性や冊子の作成代金が割高になる可能性があり、現実的ではありません。そのため今期の常任理事会では、受益の度合いに応じた負担の検討は考えておりません。
9. 会全体の為には会費の額が高い必要があると思いますが、低収入の身に響いています。
10. もう少し負けられませんか。皆増額で、やっていけません。
11. 値上げの幅が大きすぎる。
 - ▶ 学会財政が繰越金を取り崩す状況が続いていること、委員会にかかる費用も切り詰めていることを踏まえ、ワーキンググループでの検討を行い、会員の皆さまへアンケートを複数回行い、ご意見を伺いながら進めて参りました。ご理解賜りますようお願い申し上げます。
12. 会費について、値上げはやむを得ないと思料しますが、よろしければ預貯金口座からの自動引き落としの導入も併せてご検討ください。よろしく申し上げます。
 - ▶ 委託先のメニューとして年会費引き落とし口座登録のメニューが提供されておりますが、費用の負担が難しいこと、会員種別の変更によって会費が変動することから、現状では提供が難しい状況です。
13. 学会運営につきましていつもご尽力いただき誠にありがとうございます。2017年度決算において、前年度繰越金 3,819,160 円、次年度繰越金 4,260,978 円という状況で、数年後に財政危機が生じる可能性を否定できないので、会費を値上げすると言われても、あまり説得力はないように思いました。
 - ▶ ご指摘のように、前年度繰越金と次年度繰越金の差額は 441,818 円の黒字となっておりますが、以下の状況から財政状態が改善したとは言えない状況です。まず、2017年度決算で記載したとおり、学会誌 64(1)の印刷費および郵便費 (532,517 円) については 2018 年度の支払いとなります。また 2018 年度は請求日が正常に戻る事が想定されているため、4 号分ではなく 5 号分の支払が必要となります。次に、2017 年度は春季研究集会で会場費が発生しなかったこと、研究大会でも会場費が発生しなかった上に、事務局支援拠出金についても学会会計に全額返金の上、剰余分 (82,505 円) を寄附して頂く事象が生じ、当初予算から比べて大幅に余裕が生じました。ただし、これはあくまでも特例であり、今後も会場校の事情によってこれら費用の負担が生じることを踏まえると、2017 年度の状況がそのまま続くとは考えにくいと思われます。そして、2017 年度の決算ならびに 2018 年度の予算ではまだ含まれておりませんが、2019 年度には選挙が行われることから、選挙管理運営委員会の費用支出が別途追加になります。以上の点を踏まえると、「数年後に財政危機が生じる可能性を否定できない」というのがワーキング

グループ並びに常任理事会の見解です。

14. 学会運営の努力に感謝します。今回の第一号議案に「6. 会員現況」が新設されたことは大変有意義なことだと思います。「*参考」として、前年度の数値が掲載されている点も効果的です。それを踏まえて、もう一步改善を求めたいと思います。民間企業の株主総会における「事業報告」の「財産及び損益の状況の推移」では、過去3年分の数値が示されています。現在は、会員数がほぼ維持されているので、問題ありませんが、会員数に変化が生じる場合には、前年だけでなく、過去3年分程度の数値が必要だと思います。今後は、過去3年分の会員数を記載して、会員数の変化がわかるようにしていただきたいと思います。
 - ありがとうございます。掲載できるよう検討したいと思います。
15. もともと他の学会と比べて安めの設定であり、長年改定していなかった会費を値上げするのは致し方ないと考えます。値上げした分は学会活動がより活発になるように活用していただきたいと思います。
16. 第五号議案についてはやむを得ないと思われまます。
17. 第五号議案の会費改定について、やむを得ない状況と理解しています。健全な財務運営の保持に務めていただきたいと思います。
18. 適正な会費への改定をお願いいたします。
 - ありがとうございます。引き続き健全な財政となるよう努めて参ります。
19. 第三号議案の「3. 刊行事業」につき、(3)の今後の新シリーズについては、出版社についても慎重にご検討いただきたい。
 - 今後の新シリーズのあり方については、出版社も含めて検討を進めていく所存です。
20. 優秀発表奨励賞の設定は励みになって良いと思います。
 - ご意見ありがとうございます。
21. 国際的な連携とは、情報交換にとどまるのか、共同研究を学会として行うのか等、今後の見通しまたは計画があるのであれば明示していただければと思います。
 - 現在、投稿規程の英文版、国外からの後援依頼の書式整備など、条件整備を中心におこなっています。今後、学会の国際化をどのように実施していくかについては、学会員の皆様のご意見も踏まえて検討をしていきます。
22. 昨年も書きましたが、本学会会員の海外の学会における研究発表が増えていると思われまます。日本の図書館情報学会としては、学会員の海外における研究発表の現状と動向を何らかの形で把握ないしは紹介する必要があると思いますが、いかがでしょうか。このままでは、日本の研究者の研究動向が一般の会員にはわかりにくくなると思います。本学会が、自ら取り組まなくても、海外の学会で発表する会員の研究活動の紹介を支援することができると思います。そのような活動を期待します。
 - 学会員の海外での発表の動向については、学会として調査・把握することは、現在のところ考えておりませんが、学会員同士の情報交換の場を設けたり、関連の学会等をリストアップした

りすることを現在計画中です。ぜひ学会員の皆様からの情報提供をお願いいたします。

23. 学校司書の養成について、多くの大学、短大で「課程」として、科目取得証明制度が始まっています。例えば、JLAの図書館情報学教育部会と協力して実態調査などができるのでしょうか？
- 2016年11月、文部科学省から、10科目20単位からなる「学校司書のモデルカリキュラム」が示されましたが、今期常任理事会では、大学におけるその実施状況について、実態調査を行う意向を持ちません。一方で、近年、本学会の研究集会における研究発表や学会誌掲載論文において、学校図書館関係の研究が増加している状況に鑑み、学校教育学と関わるような複合領域の研究の推進については、中期的な課題となるであろうと認識しております。図書館情報学の基盤を強化する観点から、日本図書館協会図書館情報学教育部会との協力のあり方も含め、図書館情報学教育に資する事業の一環として、検討してまいります。
24. 学会誌の紙媒体発行の廃止（もしくは学会誌発行を紙で発行を希望する会員の会費を引き上げし、希望しない会員は据え置き）を検討していただきたく思います。
- 紙媒体の発行を廃止し、オープンアクセスとして公開することの是非については、すでに常任理事会及び理事会において検討しております。紙媒体の廃止により、現在の「学会誌売上金」「広告料」の収入が無くなるとともに、団体会員数が減少する可能性もあることから、学会としては減収となります。また、会費については2019年度からの改定が承認されたところですので、従いまして、当面の間、紙媒体の発行は継続いたします。
25. お世話になります。予算表には当該年度予算の右に前年度決算額があると変更点がわかりやすい。予算額の積算根拠をすべて点検するのは難しいので、簡易な判断材料として提供していただけるとありがたいが、いかがでしょうか。
- ありがとうございます。検討させていただきます。

【その他】

- ・ ここ最近、学会の先達のみならず、現役世代の会員のご逝去に伴う退会の通知（会報の「会員異動」欄にて）が目につき、心が痛む。学会として会員の健康管理まで云々するのは現実的ではないだろうが、何らかの形で呼びかけ・注意喚起の方策があれば、と思う。
- ・ いつもお世話になり、ありがとうございます。投票が遅くなり申し訳ありません。深くお詫び申し上げます。
- ・ 大変お疲れ様です。
- ・ 常任理事・事務局の皆さま、いつもありがとうございます

『図書館情報学用語辞典』第5版の新規採用項目・削除項目についてご提案のお願い

『図書館情報学用語辞典』第5版の刊行に向け、編集委員会が発足いたしました。第4版刊行時からの動向をふまえ、見出し語として新規に採用すべき項目および削除項目の候補について、会員の皆様からのご提案を募集いたします。幅広いご意見をいただけますよう、ご協力をお願いいたします。ご提案のある方は、学会ウェブサイトからリンクされているウェブフォームにて、2018年11月30日（金）までに必要事項を記入してください。なお、実務的な用語は重視しない、一般的な語は採らず専門的な語

を重視する、存命の人名は採らないといったこれまでの方針を引き継いでいます。最終的には、編集委員会にて検討のうえ決定させていただきますので、予めご了承ください。

(図書館情報学用語辞典編集委員会)

役員会等の記録

2018年度第2回常任理事会（開催記録）

日時：2018年7月8日（日）13：00～19：00

場所：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー19階 共同実習室2

出席者（敬称略）：小田，倉田，青柳，浅石（記録），今井，岩崎，荻原，三浦

欠席者：なし

議事内容：

1. 2018年度定例（通信）総会 投票結果の整理
2. 各委員会・特命事項に関する報告・協議
3. 今後の活動
4. その他

2018年度第3回常任理事会（開催記録）

日時：2018年9月30日（日）12：30～15：00

場所：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー19階 共同実習室2

出席者（敬称略）：小田，倉田，青柳，浅石（記録），今井，岩崎，荻原，三浦

欠席者：なし

議事内容：

1. 各委員会・特命事項に関する報告・協議
2. 学会賞・論文賞・奨励賞の選考・授与
3. 学会活動に貢献があった者への感謝状の贈呈
4. 2018年度第2回理事会の議題整理
5. 2018年度研究集会の次第整理
6. その他

委員会・事務局より

『日本図書館情報学会誌』投稿募集

『日本図書館情報学会誌』の投稿先は以下のとおりです。投稿は随時、受け付けています。投稿に際しては「投稿規程」，「執筆要綱」，『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール」をご参照ください。

(編集委員会)

- ・ 投稿先：日本図書館情報学会編集委員会 (journal@jslis.jp)

- ・ 『日本図書館情報学会誌』投稿規程 2018 年 7 月 8 日改訂
http://jslis.jp/wp-content/uploads/2018/09/c_reg_180708.pdf
- ・ 『日本図書館情報学会誌』執筆要綱 2016 年 10 月 8 日改訂
http://jslis.jp/wp-content/uploads/2018/01/w_out_161008.pdf
- ・ 『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール 2016 年 10 月 8 日改訂
http://old.jslis.jp/journal/JSLIS_review_rule161008.pdf

視覚障害者への学会誌 PDF 版の提供について

視覚障害者の会員の方に『日本図書館情報学会誌』の PDF 版データを提供いたします。ご希望の方は、事務局（office@jslis.jp）までメールでご連絡ください。お心当たりの方は、対象となる会員の方にお声かけいただければ幸いです。事務局より、障碍の程度をお伺いした上で、提供いたします。

（編集委員会）

メールマガジンについて

総務委員会ではメールマガジンを随時、発行しています。掲載・講読希望の方は、総務委員会まで電子メール（somu@jslis.jp）にてご連絡ください。なお、掲載を希望する方は、PDF の添付ではなくメール本文に掲載内容を記してお送りください。

（総務委員会）

事務局員追加について

2018 年 10 月 1 日より、学会事務作業円滑化のために、以下の 2 名の方に事務局員として加わって頂くこととなりましたので、お知らせいたします。

- ・ 武井千寿子（名古屋大学図書館，メール対応担当）
- ・ 高浪雅洋（東京大学，J-STAGE 担当）

（事務局）

2018 年度の会費納入のお願い

2018 年度の会費を未納の方はすみやかに納入してください。2017 年度までの会費を未納の場合は、2018 年度と合わせてできるだけ早く納入してください。なお、会費を 3 年滞納した会員（学生会員は 2 年）については、その年度末（3 月 31 日）に会員資格停止の手続きを行います。次年度から会員としての権利を失いますのでご注意ください。

（事務局）

【振り込み先】

ゆうちょ銀行 口座番号＝00160-5-0045759 口座名義＝日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019 店 口座番号＝当座 0045759 口座名義＝日本図書館情報学会

なお、本年度より学会費のクレジットカードによる支払いができるようになりました。下記のサイトからログインの上、決済が行えます。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/settlement/JSLIS>

ログイン後、「オンライン決済へ進む」を押していただき、クレジットカード情報をご入力いただき、「オンライン決済の実行」をクリックすると決済が完了します。どうぞご活用下さい。

会員情報変更・退会および会員情報管理について

住所、電話番号、所属先、メールアドレス、会員種別等の変更については、学会ウェブサイトに掲載されているガリレオの会員情報管理システム (SOLTI) から直接変更していただくか、「会員情報変更」のページ (http://www.jslis.jp/membership_3.html) に掲載されている「会員情報変更申請書」にご記入いただき、事務局 (office@jslis.jp) までメールでお送りください。また会員種別の変更については、当該年度の4月20日までに申し出がない場合、その年度の会員種別の変更はできません。なお、翌年度から会員種別変更が見込まれる場合、前年度からも受付を行っております。学会発表時の所属や会費請求とも連動しておりますので、判明次第速やかにお願いたします。

なお、退会については特に書式はありませんので、電子メールにて、退会理由を併記のうえ、事務局 (office@jslis.jp) までご連絡ください。毎年3月20日までに申請のあった場合、当該年度末での退会となり、それ以降はすべて翌年度末での退会となり、会費が発生しますのでご注意ください。

(事務局)

学会受領資料

紙幅の都合により、図書のみ記載しております。(編著者名の五十音順)

- ・ 小西 和信 監修, IAAL 認定試験問題集編集委員会編『IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験過去問題集: 総合目録-雑誌編』樹村房, 2018
- ・ 酒井 由紀子 著『健康医学情報の伝達におけるリーダビリティ』樹村房, 2018
- ・ 高山 正也 監修, 壺阪 龍哉, 齋藤 柳子, 清水 恵枝, 渡邊 佳子 著『文書と記録: 日本のレコード・マネジメントアーカイブズへの道』樹村房, 2018
- ・ 情報科学技術協会 監修, 原田 智子 編著, 小河 邦雄, 清水 美都子, 丹 一信, 藤井 昭子 著『プロの検索テクニック: 検索技術者検定2級公式推奨参考書』樹村房, 2018
- ・ 結城 俊也, 好本 恵 著『認知症予防におすすめ図書館利用術2: 読書・朗読は脳のトレーニング』日外アソシエーツ, 2018
- ・ 吉田 右子 著『オランダ公共図書館の挑戦: サービスを有料にするのはなぜか?』新評論, 2018
- ・ 吉村 和真, 藤澤 和子, 都留 泰作 編著『障害のある人たちに向けたLLマンガへの招待: 果たして「マンガはわかりやすい」のか』樹村房, 2018

会員の皆さまが図書館情報学関係の著作を刊行された際には、可能であれば事務局(白百合女子大学今井研究室)まで1部お送りいただければ幸いです。書評対象文献の選定ならびに学会賞選考の際の参考とさせていただきます。

(事務局)